

# 農業施策に関する 政策提言書

高知県

平成25年6月27日

# 高知県は「次世代施設園芸モデル団地」の適地

## その理由

- 本県は、全国に先駆けてオランダウエストラント市と協定を締結し、人的・技術的交流！
- また、協定を活かし県農業技術センターで研究開発に取り組むと共に、炭酸ガス施用など効果が見られた技術を現場へ普及！
- 天敵昆虫の導入率など環境保全型農業のトップランナー！豊富な森林資源を生かした新エネルギーへの取り組み！

## オランダとの提携

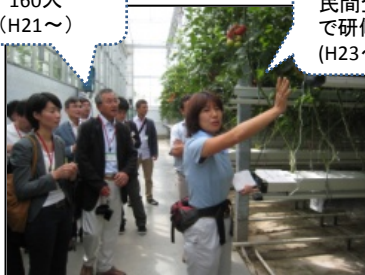
- ◆オランダウエストラント市と友好園芸農業協定締結 (H21～)



- ◆技術訪問団や研究員の派遣など、人的・技術的交流

技術訪問団  
160人  
(H21～)

研究員が  
民間企業  
で研修  
(H23～)



- ◆オランダの技術者を招聘



生産現場で直接指導

オランダとの提携を活かして

## 県の研究・普及への取り組み

- ◆「こうち新施設園芸システム」の研究開発 (H23～)

・炭酸ガス施用、温湿度管理など複合環境制御による高品質多収技術

炭酸ガス施用、温湿度  
制御による増収

ハイワイヤー栽培  
による増収



ピーマン、  
パプリカでは  
30%の増収効果

LED照明による電気  
料金の節減

ヒートポンプによる  
冷暖房経費の節減

- ◆炭酸ガス施用装置の普及

・篤農家のほ場を活用したグループ実証  
炭酸ガス施用装置：ナス、ピーマンなど7品目、15台  
ハウス内環境モニタリング装置：30台



まとまりの場で技術の相互研鑽

## 環境保全型農業への取り組み

- ◆天敵昆虫の利用などIPM技術の確立と普及  
・天敵導入率：ナス77%、ピーマン91% 等



地域に生息している天敵昆虫



温存ハウスで増殖し利用

## 化石燃料に代わる 新エネルギーへの取り組み

- ◆木質バイオマスボイラーの利用推進  
・木質バイオマスボイラー (142台)



豊富な森林資源を  
利用



農業用バイオマス  
ボイラー

- ◆ヒートポンプの利用推進  
・ヒートポンプ (587台)

# 先進的技術を活かした「次世代施設園芸モデル団地」の整備に関する提言

政策提言先 農林水産省

## 政策提言の要旨

現在国で検討が進められている次世代施設園芸モデル団地の整備について、次のとおり提言します。

- 1 意欲ある地域が参加できるよう、地域の実情に応じた規模でも支援対象にすること。
- 2 整備にあたっては、手厚い支援策を講じること。また、大規模な事業となることから、複数年事業も可能とすること。
- 3 オランダからの技術支援体制の構築や、試験研究、生産現場への普及などのソフト支援もあわせて行うこと。

## 【政策提言の理由】

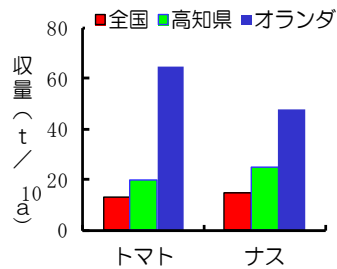
農業が自立した「成長産業」となるためには、生産性の向上や経営規模の拡大などの取組を加速化させることは重要です。そのためには、現在、国において検討が進められている次世代施設園芸モデル団地の整備は必要と考えています。

- 1 地理的・社会的制約から、大規模な農地の集積が困難な地域も多くあります。  
このため、次世代施設園芸モデル団地整備の制度設計にあたっては、意欲のある地域が参加できるよう、団地の規模要件について、地域の実情に応じた規模でも支援対象としていただくよう提言します。
- 2 先進的な技術を取り入れた施設園芸団地の整備を行う場合、大規模な高軒高ハウスの整備や環境制御技術の導入にかかる経費が多額となり、事業実施主体の負担が大きくなります。  
また、多くの生産者は大規模園芸施設での営農経験がないことから、リスクの大きい規模拡大には経営面での不安が生じることも考えられます。  
このため、施設園芸モデル団地の整備において、より多くの法人等が参加できるよう、補助率を手厚くするなどの支援策を講じていただくとともに、複数年での事業実施も可能としていただくよう提言します。
- 3 また、オランダとは気候条件や品種等が異なるため、地域に合った技術確立が必要であることから、オランダからの技術支援体制の構築とともに、試験研究や生産現場への普及などソフト支援も併せて行っていただくよう提言します。

# 先進的技術を活かした「次世代施設園芸モデル団地」の整備について

## 日本の園芸農業の現状等

オランダは、九州と同面積で世界第2位の農産物輸出国



- ◆オランダに比べて収量が低い
- ◆経営規模が小さく、生産コストが高い
- ◆IPM技術の普及が一部の品目に止まっている
- ◆価格が高騰している化石燃料に依存している

## 次世代施設園芸モデル団地のイメージ

### 高品質・多収技術

- 複合環境制御技術による増収
  - ・炭酸ガス施用、温湿度管理、LED照明等
- データ農業による飛躍的な増収



炭酸ガス施用装置

### 先進的なIPM技術

- 生物的防除技術の活用
  - ・土着天敵、微生物資材等
- 物理的防除技術の活用
  - ・防虫ネット、防蛾灯等



土着天敵

## 高知県のこれまでの取組

### ◆IPM技術など環境保全型農業の推進

(IPM: Integrated Pest Management)

### ◆オランダ並みの収量を目指す「こうち新施設園芸システム」の開発(H23~)



### ◆オランダとの技術交流(H21~)

- ・オランダウエストラント市との友好園芸農業協定締結
- ・研究員の長期研修や技術交流訪問団の派遣
- ・技術者を招聘し、研究開発と普及を加速化

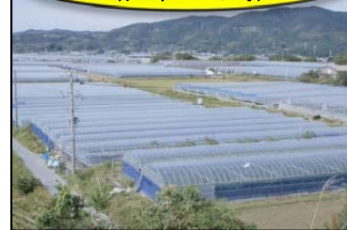
### ◆先進技術のグループ実証(H24~)

- ・IPM技術や炭酸ガス施用、ハウス内環境モニタリング
- ・データを農家、普及指導員、JA指導員、研究員が共有
- ・篤農家ほ場での「学び教えあう場」を活用し普及

環境制御の考え方を導入した研究開発

- ・炭酸ガス施用
- ・温湿度管理
- ・LED照明 など

### 既存型ハウス (ナス、ピーマン等)



### 高軒高ハウス (パプリカ、トマト等)



集出荷施設

### 化石燃料からの転換

- 森林資源の活用
  - ・木質バイオマスボイラー
- 自然エネルギーの利用
  - ・太陽光蓄熱、発電



木質バイオマスボイラー

### 規模拡大による効率的な栽培・経営

- 施設の大型化・機械化・自動化
- 生産性、作業性の向上
- 経営管理の効率化
  - ・企業の経営によるコスト、労務管理

## 現状からみれば

- ◆地域によっては、大規模な農地の集積には限界がある。
- ◆施設園芸モデル団地の整備には多額の費用が必要となる。我が国の施設園芸は経営面積が小さく、大規模ハウスでの営農経験が少ないことから、経営面での不安が生じる可能性がある。
- ◆オランダとは気候条件や品種等が異なるため、地域に合った技術を確認をしていく必要がある。

## 政策提言

- ◆意欲ある地域が参加できるよう、地域の実情に応じた規模でも支援対象にすること。
- ◆整備にあたっては、手厚い支援策を講じること。また、大規模な事業となることから、複数年事業も可能とすること。
- ◆オランダからの技術の支援体制の構築や試験研究などのソフト支援もあわせて行うこと。